

自閉症総合援助センター 萌葱の郷  
豊後大野子育て総合支援センター

# ASSIST



～芽吹く未来へ～



## ◆こどもの夢 こざい保育園

平成 28 年度に大分市認可保育所の新規事業者として選出されてから、平成 30 年 4 月に坂ノ市地域に 60 名定員の保育所開設に向けて約 1 年半かけて準備してきました。

天災時にも備えて、海拔の高い約 4000 坪の敷地内に 290 坪の鉄骨造りの広い園舎に太陽光パネルや床暖房を設置する等、申し分のない環境設備を整えることができています。まさに「こどもの夢 こざい保育園」の第一歩です。

2018.5.1 発行  
VOL.14



# 天命

理事長 五十嵐 康郎  
(全日本自閉症支援者協会副会長)

3年前に大病をして死に損ね、生きることの苦しさを実感した。天命というものがあるとしたら、今は与えられた命を生きている。

来し方を振り返ると、運命の糸に導かれて自閉症支援に携わってきた。子どもの頃は「トムソーヤの冒険」や「15少年漂流記」の冒険の世界に憧れていた。自分が養子だということを知ったことが福祉の道に進むきっかけになった。高校の同級生を誘って、知的障害児施設に行った。今思えば、勝手気ままに訪問し、施設にとってははなはだ迷惑だったに違いない。

当時は自閉症について知る由もなかったが、その施設で初めて自閉症児に出会った。障害福祉に取り組む気持ちはなかった。親から独立したいという思いがあって、養護施設で、働きながら日本福祉大学の二部に進学する道を選んだ。日本福祉大学は学生運動とはほとんど無縁だったため学生運動に巻き込まれることもなく無事に卒業した。

養護施設で知的障害のある子どもの存在を知り、知的障害児施設が不足していることを知って、施設を創ろうと思った。休学して「ひゅうまん運動」を立ち上げた。運動を進める過程で、入所施設ではなく、障がいがあっても、地域で対等・平等に暮らすべきだとの考えに至り、共同体構想に切り替わった。

理想は高かったが、現実が伴わず、貧乏生活の中で住人（当時は専従者と呼んでいた）同士のいさかいが絶えなかった。ついに壊滅的な結果になり、出直しを決意して、1971年に滝乃川学園（東京・1891年創立）に就職し、児童部重度棟で重い知的障害のある自閉症児を担当した。

施設された座敷牢のような場所で、自傷、他傷、便コネ、唾吐き、器物破壊などの行動障害が激しく、労働条件が厳しかったことから、私が就職する前年に4名の職員定数に対して、15名の職員が辞めて入れ替わっていた。

私は18年間在籍し、環境改善、施設撤廃、毎日の入浴、外出や活動の保障、就学権の保障などの生活見直しに取り組んだ。担当した子どもたちが卒園して区切りがついたことと、理想的な自閉症者施設のあり方と自閉症療育を極めたいとの思いから、バブル景気で高騰した自宅を売却して自己資金を捻出し、大分県自閉症児親の会の有志の方々の協力を得て、1991年に自閉症者施設「めぶき園」を開設した。

開設当初は利用者の行動障害が激しく、職員は未経験者ばかりで、支援員7名という厳しい状況でのスタートだったが、現在は自閉症総合援助センターとして、早期療育、地域支援、生活支援、就労支援、相談・普及啓発、スーパーバイザー養成に取り組み、県内・県外から多くの研修生が訪れ、ライフステージを通じた自閉症支援モデルとして高い評価を得ている。自閉症の人たちとの出会いは私にとっての天命であり、宝である。一人でも多くの人に自閉症の人たちが素朴でひたむきで魅力的なことを知って欲しいと願っている。

障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい  
施設長 近藤 暢秀

平素より当事業所の運営につきましては、格別のご理解、ご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、昨年11月発行のASSISTにて、当事業所が受けた台風18号の被害についてご報告いたしました。その後も関係者の皆様をはじめとして、たくさんの心強いお心遣いやお見舞い等をいただきました。心より感謝申し上げます。

また台風翌日には法人内から職員70名以上が協力していただきましたおかげで、最低限の活動はできる状況になりましたので、生活介護の活動は翌々日から、レストランも翌週には再開させることができました。泥だらけになって作業してくれた職員、ボランティアで駆けつけてくださいました久保平自動車様、九総管理の大塚元夫様には改めまして心より感謝申し上げます。

しかしながら、とりあえず活動の再開はいたしました。全体として被害の爪あとが深く残っており、日中まだ暑い日が続いていた中で、エアコンが入らず、汚水の悪臭も気になりながら、少しずつ復旧を進めてまいりました。

そうした中、さらにその後大型と言われる台風が接近することが数回ありましたが、その都度、公用車を高台に上げ、土嚢を購入し、建物周辺に敷き詰めて対策をし、「今回は被害がありませんように」と祈りながら過ぎるのを待ちました。幸いその後は被害はありませんでしたが、不安が消えることはありませんでした。

そうした中、11月にエアコンが復旧、12月には事務室がほぼ元に戻り、レストランの冷蔵ショーケースも年内に新しいものになり、フェンスは年が明けてから復旧しました。大変だったのは書類で、汚水にまみれて保管できる状態ではないものがほとんどで、現在も再発行を依頼したり、作成しなおしたりの作業は続いています。しかしその他の環境整備は進み、悪臭も少しずつ気にならなくなり、公用車もそろって、現在ほぼ復旧することができております。

今回の災害は、萌葱の郷始まって以来の最悪の被災となりました。当初は被害の大きさに途方に暮れ、どこから手をつけてよいかわからないような状況でしたが、振り返ってみると、最悪の状況の中、人の力のすごさや、つながりの強さを感じることができ、どんこの里いぬかいの職員も少しでもはやく復旧できるようにと結束力を強めることができたと思います。皆で精一杯力を合わせて頑張っただけで参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



## ～もえぎの郷・地域交流祭～ 『がんばるもん』開催

平成29年11月23日(木)、当法人のなかよしホールをメイン会場に、もえぎの郷地域交流祭「がんばるもん」を開催いたしました。法人をあげてのお祭りとしては、今年で2回目になります。

今回は開催時期を夏から秋へと変更し、以前毎年開催していためぶき園祭りのような感じにしたいと思い、模擬店や客席の数を増やしたこともあり、ご来場された方々に満足して頂けたのではないかと考えております。

11月とは思えぬ寒さの中、ご来場頂いた皆様やご出演して頂いた方々のおかげで、大盛況のうちに終わることが出来ました。また、開催するにあたり、テントや椅子・テーブル等をお貸し頂いた犬飼小学校・犬飼公民館の皆様、快く臨時駐車場をお貸しいただいた(株)大分県畜産公社様には御礼申し上げます。

こうやって、地元犬飼町内の各関係者・企業様との「つながり」が出来ていることも、この交流祭の大きな収穫であると考えています。また、ご協賛賜りました各企業の皆様にも御礼を申し上げます。

今後とも地域に根ざした施設を目指して、スタッフ一同努めて参りますので、社会福祉法人萌葱の郷を宜しくお願い致します。



もえぎの郷 地域交流祭「がんばるもん」  
実行委員長 野上 悦生 (めぶき園)

# こどもの夢 こざい保育園



所在地：大分市大字屋山 1658-6

電話番号：097-528-9900

開所時間：7：00～18：00

延長保育：18：00～19：00

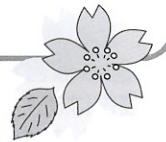
定員：60名

(0歳9名／1歳9名

2歳9名／3歳11名

4歳11名／5歳11名)

保育年齢0歳～就学前

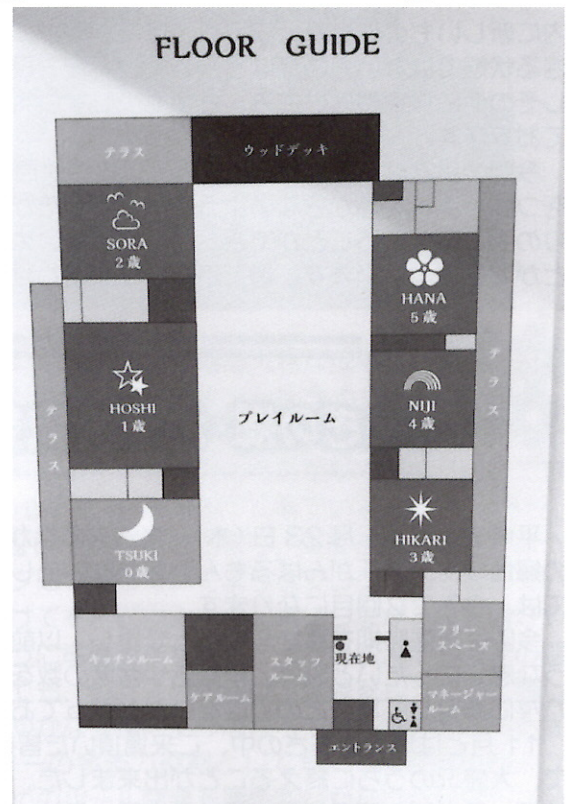


## ◆保育理念：「自他を知り 違いを受入れ 支え合う」

子ども一人ひとりをかけがえのない存在として尊重し、保護者や地域社会とともに「お互いを尊重し合える」人権意識を育む。

## ◆保育方針

- ①家庭や関係機関と連絡をとりあい、安心感を育てます。
- ②よく食べ、よく遊び、しなやかに丈夫な身体を育てます。
- ③のびのびと成長・発達する心を育てます。
- ④自分を大切にし、お友だちの個性が理解できる知識を育てます。
- ⑤聴く力、考える力、ゆたかに自己表現できる才能を育てます。
- ⑥身の自立の基礎となる生活習慣を育てます。
- ⑦お友だちの気持ちや集団生活のルールを考える力を育てます。



949. 46㎡の室内図

## こざい保育園は…

子ども一人ひとりの発達を最大限保障するために、地域の子育て機関や保護者に向けて通常の保育以外に、特に以下の支援もモデル的に進めています。

- ①児童発達支援センターとの密接な連携による発達支援と保護者への育児支援
- ②保育所を始めとする子育て機関や職員の困りや、働きがい向上への支援
- ③地域や学校との交流を通じた人権学習
- ④地震や津波などの災害時における子育て避難場所としての機能



文部科学省の2012年調査結果によると、通常の学級に知的発達  
の遅れはないものの、学習面や行動面で著しく困難を示す児童・生徒  
が6.5%いると報告されており、待機児童や保育士不足以外にも就  
学前の保育所における発達障がいへの気づきや理解、適切な支援につ  
ながることが大きな課題となっています。また、保育士の相談の中にも  
クラス運営や家族対応などの面で、発達障がいと貧困やネグレクト等  
の問題が複雑に絡み合い、一保育士や保育園だけで対応することは困  
難になっています。こうした負担が保育士の離職の原因ともなっており、  
この問題を解決するためには、保育コーディネーター養成研修の  
他にも、まだまだ保育所や保育士に向けた関係諸機関による支援体制  
を手厚くしていく必要があります。更には、平成28年4月に障害者  
差別解消法が施行されたことにより、障がい者への不当な差別的取扱  
いや合理的配慮の不提供が禁止され、サービス提供者側の不安も高ま  
っています。

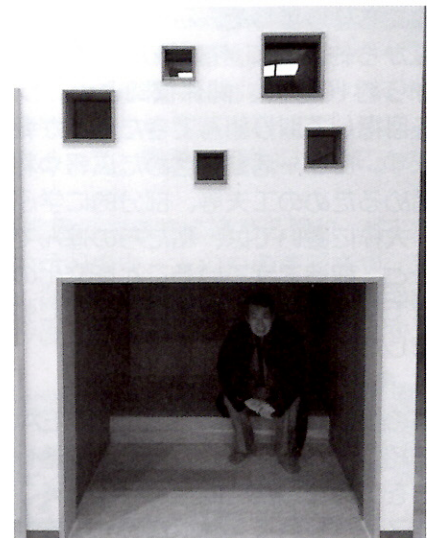
当法人は発達障がい者支援センターを中心に、これらの課題に対し  
て関係諸機関と連携しながら数多くの支援実績を有してきているとと  
もに、法人内には保育士以外にも子育て支援に関して経験豊富な看護  
師や臨床心理士、社会福祉士、作業療法士などの幅広い専門家が在職  
していることから、自園の運営のみならず、地域の子育て支援機関に  
対しても、課題解決に向けたノウハウを伝えています。

特に、発達障がい支援に関しては、治療を目指した「医学モデル」  
ではなく、日常生活の各場面で適切に発達を支える環境を目指した  
「社会モデル」が求められるようになってきていることから、1日の大半  
を過ごす保育所での関わりが重要視されています。私たちは、保育所  
以外の様々な場面でも「発達障がい支援」を実践してまいりましたが、  
効果的な支援をすすめるためには、安心感と信頼関係に基づく相互作用  
(やりとり)が大切であり、特に幼児期に周囲の大人が、こどもの  
個々の発達段階や特性を理解した上で、こどもの願いや思いを共感的  
に受け止めながら他者の期待にも気づかせ、思いやりや、人との折り  
合いをつけられるコミュニケーション力の基盤づくりを行うことが重  
要であることを学びました。この、発達障がい支援を通して学んだ理  
念は、定型発達と言われるこどもへの保育や保護者支援においても有  
効であるばかりか、保育の原則にも通じるものでもあり、保育士とし  
ての専門性の追求と発達支援に大きな違いはないと考えています。そ  
の違いを強いて言えば、こどもの特性に向けた配慮といったより深い  
知識や丁寧さが求められるといった、保育士としての専門性の向上や、  
やりがいに通じるものなのですが、身近に相談やスーパーバイズを受けられる体制がなければ、  
解決に向けた方向性を見いだせないまま離職につながって  
しまいます。現在、そういった悩みを抱えていた保育士の多くが当法人のこども園や他の事業所でやりがいを感じ  
ながら生き生きと働くことができている、その姿や運営体制の在り方についても、こどもへの発達保障に合わせて  
社会に広く知ってもらいたいとも考えています。実際に、私の恩師である日本の自閉症支援の第一人者であり、日  
本保育協会の理事長等を務めていた石井哲夫先生は、「自閉症療育は丁寧な保育をすることと同じだ」と仰って  
いました。

未だに障がいと保育を分けて捉えている方も少なくありませんが、このように障がいに向き合っ  
て合理的配慮を  
整えていくことは、障がいのあるこどもが園に安心して通えるだけでなく、利用している全てのこどもや家族に対  
しても丁寧な関わりを保障することにつながり、誰もが安心して通うことのできる質の高い保育園となります。また、  
それは保育士にとっても、見通しややりがいを持ちながら働きやすい保育環境となることを大分市内の保育現  
場でも実践していくことで、法人理念である共生社会の実現や子育て満足度の貢献に努めたいと考えています。



入り口の丸窓からプレイルーム  
全体を覗くことができます



プレイルーム内にカムダウン  
スペースを設けています

# 米国ノースカロライナ州GHA及びTEACCHセンター視察研修旅行

萌葱の郷 統括施設長 五十嵐 猛

平成29年10月23日～29日の7日間の日程で全日本自閉症支援者協会主催によるアメリカノースカロライナ州にあるアルバマーレ市のGHAとチャペルヒルにあるTEACCHセンターの視察研修に参加させていただきました。

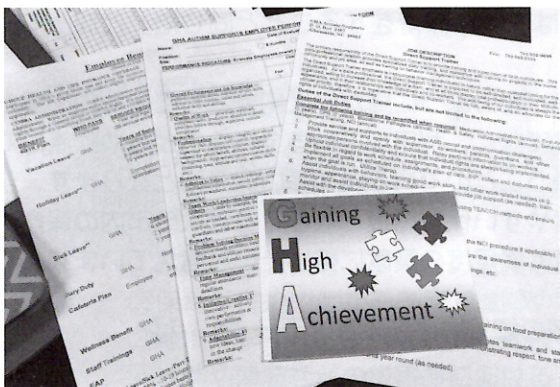
本研修を通じた感想を一言で述べてみると、フロンティアスピリッツを意識させられるものであり、自閉症支援の理念に基づいて空き店舗等を合理的に活用しながらニーズに基づく事業展開をすすめてきていることや、就労に向けた支援をモデル的に展開させている取り組みに対して、多くの共感を得ることができました。もしも10年前に視察に行っていれば、共感ではなく、感銘を受けていたであろうと思われましたが、この10年の間に当法人でも社会的なニーズに向けて発達障がい者支援センターを始め、障がい者就労支援施設やケアホーム、認定こども園と児童発達支援センター等を一体的に運営する子育て総合支援センター事業を通して先駆的な運営をすすめて来ていることから、職員の質的向上や定着率も含めて、「こちらでも同じような工夫をしているなあ～」というように、私たちの取り組みと重ねあわせて共感するものが殆どであり、驚かされる内容は意外に少なかったように思われます。逆に、TEACCH本部における関係諸機関との連携に比べると、大分県では、大分県発達障がい者支援専門員の養成と活用を通してきたことによって、就労機関から保育所や認定こども園のような子育て支援機関までも含めた、より多角的な連携がとれてきていることをあらためて意識する機会にもなりました。私自身がショプラー氏のアイデアに憧れてから約20年、発達障がい者支援センターの委託を受けてから約10数年、関係機関とのコラボレーションによる支援を目指して取り組んできたことが報われたようにも感じています。ロビー活動も含めた広報や利用者のモチベーションを高めるための工夫等、部分的に学ぶことは多くありましたが、大枠に置いては、私たちの進んできた道は間違っていないこと、前進できていることを文化の違う国とも同じ方向性を以てすすめられてきていることに強い自信を得ることができました。



今回の視察研修先であるGHAやTEACCHセンターにおいて、学びの部分として得た大きな成果といえば、日本で主に紹介されている絵カードや構造化等といった技術的なものではなく、アセスメントを含めた情報収集力と、それらをデータとして活用させていくプログラム力です。例えば、当法人でも職員研修の実施や支援内容の向上に向けたスーパーバイズは行なっていますが、それがどれだけ活かされてきているか目に見えた形で残すことはできていません。そのため、プログラムとしてまとめていくことへの必要性を持ち続けて来ているところであり、GHAの取り組みは、とても良い刺激になりました。今後は、繰り返して行うだけでなく、支援者養成研修のように体系化させていくことにより、人事考課と合わせてキャリアアップにつなげていくようなプログラムに改めていく工夫をしていきたいと考えています。また、利用者の高齢化に向けても、ご本人への配慮につながる興味嗜好や生育過程などについての代弁を保護者に代わって私たちができるように準備をすすめることが当法人でも喫緊の課題となっています。そして、これから一緒に歩んでいく児童に対しても、自立生活に向けて記録をしっかりと残していくことが発達障害者支援法の改正で謳われた「切れ目のない細やかな支援に」つながっていくものであると受け止めているところです。タイムリーに、発達障がい者支援センターの今後の役割としても、つなぎ目のバック

アップを進めるためのツール開発を進めていかなければならないとの認識を深めていたところでもあり、昨年度から取り組んできた保育指針に基づいた保育経過記録や発達支援ファイル中に取り入れた文科省のチェックリストのレーダーチャートを関係機関との共有に向けて普及啓発をすすめていくことを当面の自己目標ともしていきたいと考えています。

最後に、ドン氏を始めとするGHAならびにTEACCHセンターの皆様、視察研修中の通訳やコーディネーターとしてご尽力いただいた萩の杜の岡さんと、はるにれの里の吉岡さん、このような貴重な機会をおつくりいただいた全自者協役員の皆様に感謝申し上げます。



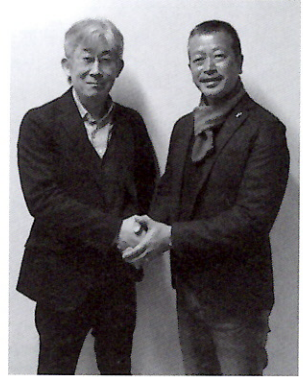
# 平成29年度大分県発達障がい者支援センター主催講演会 平成29年度ペアレントメンター養成研修地域資源交流会

平成30年1月7日、コンパルホール文化ホールにおいて「『これからの世界』で働く君たちへ」と題して、元アップルジャパン社長の山元賢治氏にご講演を頂きました。山元氏は2004年にスティーブ・ジョブズ氏に指名され、アップル・ジャパンの代表取締役社長に就任し、iPodビジネスの立ち上げからiPhoneを市場に送り出すまで国内の最高責任者としてアップルの復活に大きく貢献されました。講演では、リーダーシップに対する考えや、日本の教育について「障がい」という枠組みを越えて、参加者が元気になるような素敵なお話をしていただきました。

午後からは、ペアレントメンター養成研修の一環として地域資源に関する情報交換を実施しました。この交流会では市町村ごとにペアレントメンターの受講生だけでなく、様々な職種の方にご参加いただいて「地域資源マップ」を作成しました。

今回の講演会は、大分県内の発達障がい児・者の療育や支援にかかわる方々や保護者など約200名にご参加いただきました。今後も充実した講演会や研修を企画してまいります。

平成29年度大分県発達障がい者支援センター主催講演会  
「これからの世界」で働く君たちへ  
会場 コンパルホール 文化ホール  
(大分市南内町1-5-38)  
9:00～受付  
9:30～10:00 開会行事  
10:00～11:30 山元氏講演  
10:00～11:30 山元氏講演  
スティーブ・ジョブズ氏に指名された  
伝説のアップル・iPhoneの社長が  
「社会や自分の未来を自分の手で創造  
すること」について講演します。  
参加費 2000円・定員 450名  
申し込み  
申込期間 12月10日(土)～12月16日(金)  
申込先 大分県発達障がい者支援センター  
〒870-0001 大分県大分市南内町1-5-38  
TEL:0975-33-1111 FAX:0975-33-1112  
E-MAIL:info@dwgpc.or.jp



## 「わたしの療育論」

### 〈当たり前前に取り組む〉

めぶき園 支援係長 小野 淳一郎

私は平成20年に入社しました。入社して1年間はフルパートとして様々な活動に取り組み、2年目から8年目まで農園芸課に配属され、常に畑にて利用者と関わってきました。

以前、萌葱の郷が20周年を迎えた際に発行した20周年記念誌にて「パート職員として採用され間もない私が、右も左も分からないまま利用者対応をする日も多々ありました。しかし『たかが3年されど3年』で、少ない職員だったからこそ利用者と密に関わる事ができ、その時間が私と利用者の関係を楽しんでくれたと感謝しています。」と記載しました。

あれから7年の時を経て、入社して10年の経験で培ったものから療育論といえるものがあるか分かりませんが、日々の支援の中で大切にしていることがあります。それは、常に日頃の支援においてアンテナを張って小さな変化に気付き・考え・対応することです。

めぶき園での生活は個人を尊重しつつ集団生活においてのルールを守ってもらわなければなりません。しかし、個人の思いを全て受け入れていけば集団生活の場として収拾のつかない状況になりかねません。その中でこだわり

や不穏状態によるパニック等、あらゆる事態に備え、心からの準備をしておかなければなりません。逆に、小さな成長にも目を向け、出来るようになったこと、落ち着いて過ごす時間が長くなったこと等、喜ばしいことにも気付く必要があります。

療育に携わる者ならば当たり前と思われませんが、入社した頃は変化に気付かない、気付くことはできても見過ごし、あとから取り返しのつかない事態にまで発展している、または成長を止めてしまう・・・こんなことも実際にはあり得るわけです。

何もわからずに支援に携わっていた頃は先輩方の洞察力や支援力にただ驚き、真似てみようと思っていました。アンテナを張って変化に気付く。気付いたら相談する。相談から支援会議になり対応方法を検討する。上手くいかなければ新たに対応方法を考える。

めぶき園は支援・療育を真剣に考え対応する場所です。「当たり前前に考え、対応していく」これまで支援方法を教えてくれた諸先輩方に追い付け追い越せの気持ちで「当たり前」をこれから継続していくことが大切ではないかと思えます。

# 平成 29 年度 研修委員会 年間活動報告

※当法人では、ここに記載した研修委員会活動以外に事業所毎の研修も充実させています。

月	日	開催研修	内容・演題	講師	会場
4月	3日	新人研修	「支援や療育の基礎となるもの」	社会福祉法人萌葱の郷 理事長 五十嵐 康 郎	なかよしホール
	4月1日~5月末	内部研修・全事業所	「各事業所の目標と展望について」	各部署の部長・課長・係長	各事業所にて
	21日	一般研修	「フィンランドにおける障害者の人権と意思決定を学んで」	一般相談支援事業所 プラス 支援係長 田 島 良 平	なかよしホール
5月	22日	新人研修	「接遇マナーについて」	障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 施設長 近 藤 暢 秀	なかよしホール
8月	4日	一般研修	「てんかん・熱中症対策について」	障害者支援施設 めぶき園 主任看護師 首 藤 千鶴代 看護師 甲 斐 和歌子	なかよしホール
	31日	一般研修	「支援者のスタンスについて」	豊後大野子育て総合支援センター センター長 五十嵐 猛	なかよしホール
10月	3日	一般研修	「ハンドメイドジャパン伝達研修」	障害者支援施設 めぶき園 主任支援員 能 一 由起子 障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい 支援員 矢 野 弥 生 ライフサポートセンターなごみ園 支援員 阿 部 紗央莉	なかよしホール
	28日~29日	内定職員研修会	「新人職員研修」	大分県発達障がい者支援センター ECOAL 副センター長 田 中 秀 征	飯田高原
11月	1日	新人研修	「発達障がいについて」	大分県発達障がい者支援センター ECOAL 副センター長 田 中 秀 征	なかよしホール
1月	18日	一般研修	「就労支援事業の在り方と事業所の設立について」	やまねこ工房 管理者 古 山 圭 二 氏	なかよしホール
2月	15日	一般研修	「海外視察研修 報告会」	豊後大野子育て総合支援センター センター長 五十嵐 猛	なかよしホール
3月	17日	内定職員研修会	「先輩職員より」	なかよしひろば支援員 中 村 真 子 いぬかいこども園保育教諭 川 野 麻 世	貸会議室
	27日	一般研修	「平成 29 年度発達障害支援スーパーバイザー養成研修 報告会」	発達障がい者支援センター ECOAL 支援係長 後 藤 伸 二 一般相談支援事業所 プラス 支援係長 田 島 良 平	なかよしホール

<b>障害者支援施設 めぶき園(法人本部)</b> 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10 TEL097-578-0818 FAX097-578-0819 mebukien@moeginosato.net	<b>いぬかいこども園</b> 大分県豊後大野市犬飼町田原1419番地 TEL097-578-0706 FAX097-578-0710 inukai-hoikuen@moeginosato.net	<b>ライフサポートセンター なごみ園</b> 大分県豊後大野市犬飼町大寒2149 TEL097-586-8070 FAX097-586-8071 nagomi@moeginosato.net	<b>大分市</b> <b>こども発達支援センター 大分なごみ園</b> 大分県大分市丹生210-3 TEL097-524-3636 FAX097-524-3637 ooitanagomien@moeginosato.net
<b>ホームヘルプサービスセンター らすかる</b> 大分県豊後大野市犬飼町下津尾4355-10 TEL097-578-1888 FAX097-578-0819 rasukaru@moeginosato.net	<b>こども発達・子育て支援センター なかよしひろば</b> 大分県豊後大野市犬飼町田原1414番地1 TEL097-586-8811 FAX097-586-8818 nakayoshi@moeginosato.net	<b>障がい福祉サービス事業所 どんこの里いぬかい</b> 大分県豊後大野市犬飼町久原1863番地8 TEL097-578-0077 FAX097-578-1226 donko@moeginosato.net	<b>こざい保育園</b> 大分県大分市大字屋山1658-6 TEL097-528-9900 FAX097-528-9911 kozai@moeginosato.net
<b>相談支援事業所 プラス</b> 大分県豊後大野市犬飼町田原1416番地1 TEL097-578-0188 FAX097-578-0166 plus@moeginosato.net	<b>いぬかい子育て支援センター ゆうゆうキッズ</b> 大分県豊後大野市犬飼町田原1416番地1 TEL097-578-0188 FAX097-578-0166 youyoukids@moeginosato.net	<b>グループホーム かわしま</b> 大分県豊後大野市犬飼町下津尾3709-8 TEL097-578-0885	<b>大分県発達障がい者支援センター ECOAL</b> 大分県大分市中島西1丁目4番14号市民の権利ビル202 TEL097-513-1880 FAX097-513-1890 ecoal@moeginosato.net
			<b>戸次なごみ園</b> 大分県大分市中戸次4454-1 TEL097-578-8323 FAX097-578-8324 hetsuginagomi@moeginosato.net

## 協力者 御芳名

伊美 信長様・秦 正也様・久保平 明様・高橋歯科医院様・石井 啓様・橋本謙二様・有限会社 久保平自動車様・大分県自閉症協会様・野村忠良様(東京都府中市)・河村賀代子様(千歳町)・大分県保育連合会会長 佐藤成己様・大分市社会福祉協議会 後藤 敬様・屋山区自治会 實崎 泉様・松田恒和様・中村廣光様・野上正美様・(株)オオヒラ企画様

## 編集 後記

吹き抜ける風がなんとも心地よい季節となり、春の訪れや幾つもの出会いの中で、平成 30 年度の「ASSIST VOL.14」を発刊することができました。また、当法人は「こどもの夢 こざい保育園」を開所し、12 事業所となりました。新たな出会いに「人っていいなあ」と日々喜びや感謝を感じております。当法人に御尽力・ご理解を賜る方々、全ての皆様になんとも有り難いものと感じていただければ、今年度も広報誌づくりをおこなってまいります。よろしくお願い致します。

